



世界を知る ～It know the world～

このページでは、「世界を知る」をテーマに独立行政法人国際協力機構(JICA)デスク熊本や、国際交流・協力分野で活躍している皆様のご協力を得て、日本で生活する私たちには日常知ることができない興味深い世界の状況を紹介します。

「環境に変化を求めて」

青年海外協力隊OG 西井 千恵 さん

(平成 26 年 7 月 ～ 平成 28 年 7 月 ブルキナファソ派遣 職種：幼児教育)

生まれも育ちも熊本の実家暮らしで社会人生活も 5 年目に突入したある日、今までの慣れた生活に変化が欲しくなり、青年海外協力隊に応募をしました。

新しい環境となった場所が西アフリカにあるブルキナファソという国。慣れた日常に変化を求めたものの、初めての海外生活がまったく未知の国で不安でした。さらに、停電・断水は当たり前、医療も充実しているとは言えず、私のいた 2 年間で市民蜂起・クーデター・テロもありました。これだけでも日本にはない経験ですが、ブルキナファソで出会った素敵な愛しい人々との出会いのおかげで、改めて思った『私の今後の人生で大切にしたい事』が 3 つあります。

① 『仕事の向き合い方』

私は幼児教育隊員として現地の幼稚園の先生や研修生を対象に、大切にしてほしい子どもとの関わり方や子ども達が楽しみながら学べる保育内容などを伝える活動をしていました。伝える側になり日本での 5 年間の保育士経験を振り返ると、人間形成にとって重要な時期といわれている就学前の子ども達と関わる保育者の仕事の重要性を感じ、保育の現場はどの国でも大変とはいえ、子ども達と楽しみながら活動ができるこの仕事が私は好きなのだと思い直しました。



現地での活動の様子

② 『毎日を大切に』

ブルキナファソにいた 2 年間で 2 人の知人が病気で亡くなりました。日本と違い十分な治療を受けられなかったり、事故も多い環境でもありますが、ついこないだ「チエ!元気か?」と笑顔で声をかけて

くれた人がいなくなってしまう現実にショックを受けました。いつ、何があるかわからないのが人生と言いますが、色々な出会いに感謝し、私自身も毎日を大切にしなければと思いました。

③ 『力を抜く大切さ』

ブルキナファソの人々は困難や問題があってもよく「Ça va aller サバアレ(上手くいくよ)」という言葉を使います。ブルキナファソに赴任した当初、ブルキナファソ人に頼んだことがなかなか終わらず、計画通りに物事が進まず不安がっている私に彼らは「サバアレ」と言いました。初めは「サバアレじゃない!!」と思っていましたが、時間が経つにつれパタパタしていた心が少し落ち着いたような気もしました。しなければいけない事、求められる物事が多い日本社会で時々この言葉を思い出すと肩の力が下り、力を抜きながら考え、行動できるようになりました。やらなきゃ!と思うほどに力が入ってしまう私に必要な言葉だったのかもしれない。



現地の子供たちと

私がブルキナファソを第 2 の故郷と思えるのは、環境を変えたからこそ出来たたくさんの経験があったからだと思います。自分の環境に変化を求めるには勇気がいる事かもしれませんが、きっと何かしらの新しい気付きがあり、それまでにない自分にさせてくれるのだと思います。



最終報告会で